

令和7年度 静岡県表彰審査委員会 議事概要

日 時	令和7年8月29日（金） 11時00分～11時30分
場 所	県庁東館5階 特別会議室
出席者 職・氏名	委員長 静岡県知事 鈴木 康友 委 員 静岡県議会議長 竹内 良訓 株式会社静岡新聞社代表取締役社長 大須賀 紳晃 社会福祉法人東益津福祉会理事長 村松 幹子 生活の森清水代表 劍持 万枝 静岡県副知事 塚本 秀綱 事務局 知事公室長 高松 央 秘書課長 前田 満 表彰班班長 千田 俊輔 表彰班主査 松久 和樹 表彰班主査 富士岡 真季
議 題	令和7年度静岡県知事表彰受賞者の決定について
配付資料	令和7年度静岡県知事表彰審査資料

1 議事の結果

令和7年度受賞候補者の事務局案に係る審議の結果、事務局の原案どおり決定した。

2 議事の概要

事務局案説明後の議事の概要は以下のとおり。

(大須賀委員)

これまで推薦がなく、今回初めて候補になった団体があるが、非常に評価が高くなっている。今までなぜ推薦されなかつたのか、少し不思議に思った。

(事務局)

推薦元の市町において、市長、町長の表彰を受けた方や団体を県知事表彰の候補として推薦している場合がある。当該団体は昨年度に市の表彰を受けられたということで、今回の推薦に至っている。

(村松委員)

民生委員の方々は、自身が民生委員を何年経験されたということに非常にナーバスになられる傾向がある。

今回の候補者を拝見すると、民生委員としての経験年数は同じだが、評価が異なる

る方々がいる。別の人と比較した時に、自分も同じ経験年数なのに、なぜ自分は表彰されないのかと思う方がいるかもしれない。

民生委員の方々は、こういう表彰をとても励みにされておられるので、そういうところも少し御配慮いただけないと良いと思った。

(事務局)

御指摘いただいた方々については、民生委員としての経験年数は同じだが、一方の方が民生委員以外の経歴を兼ねている功績により、総合的な評価に少し差が出た形である。御提言については承知した。

(創持委員)

毎年この委員会に出席して、各分野で活躍されている方のおかげで、当たり前の生活として世の中が回っているという事を考えさせられる。その一つが社会福祉分野であり、今は社会が複雑というか、昔とは人間関係なども異なる中で、とても大変な思いをされているのだと思う。

去年も申し上げたかもしれないが、社会福祉の表彰者数をもう少し増やしていくだけないかと思う。どの分野も大変だとは思うが、特に社会福祉の分野は大変かと思うので、1人でも2人でも増やしていただくことができれば、励みにしていただけるのではないかと思う。

(村松委員)

民生委員はなり手がいなくて、どの地域も欠員が出ているような状況である。長く務めれば良いというものではないにしても、その役目を果たしたということが社会的に認められていくのだということを、皆さんにもっと発信していただければ、民生委員の方々もやりがいがあるのではないかと思う。

(事務局)

表彰者数については、過去の実績を基に調整させていただいているが、今の委員のお話も含め、来年度以降また検討させていただければと思う。

(竹内委員)

表彰された団体の規模がどれくらいなのかわかるように、配布資料に会員数が書いてあるとわかりやすい。来年度以降は、書けるようであれば記載して欲しい。

(事務局)

来年度から対応させていただく。

(塙本委員)

地域活動・ボランティア等善行の分野については、多様な分野で活動される方々が増えていることや、ボランティアの方々は協会といった組織に属していないことから、表彰の候補者として拾い上げる際に目が行き届くのか、ということがあると思う。そこで、候補者の掘り起こしをどのように行っているか、また、工夫していることがあれば、御説明いただきたい。

(事務局)

知事表彰では、県の各部局や市町から推薦のあった候補者の中から受賞者を決めている。様々な分野や活動がある中で、県・市町に関係のある団体でなければ、立候補して推薦を受けるのはなかなか難しいという現状があるかもしれない。そのため、事務局では、他県の表彰事例を参考にするなど、これまで推薦されてこなかつた団体の把握に努めながら、推薦元である県の各部局や市町に対し、具体的な事例を例示するなどして、新しい分野や、今までなかなか候補に挙がらなかつた団体等の掘り起こしを行っていきたいと考える。

(委員長)

委員の皆様から御意見をいただいたが、個別に御異議はなかつたと思うので、今年度の知事表彰の受賞者は事務局案のとおりでよろしいか。

(各委員)

異議なし

会議終了

※事務局から、今後の表彰事務の日程等について説明